

令和 5年度

事務事業評価表 ( 令和 4年度 の実績評価)

記入年月日  
令和 4 年 4 月 1 日

事務事業名		塚田伝奨学資金支給事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020102000164
						単独/補助	補助	所属課	090101
政策体系		政策体系上の位置付け						学校教育課	
総合計画の施策名		0201 学校教育の充実						課長名	
政策名		02 生きがいを育む学びのまちづくり						グループ	
施策名		01 学校教育の充実						担当者名	
手段名		02 ②教育体制の充実						総務グループ	
		財務会計上の位置付け				事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計		
	01	10	01	02	02	00	事務局事業		
法令根拠		塚田伝奨学資金支給条例				事業期間			
						単年度繰返し (昭和52年度~)			
						期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
昭和52年真壁町大字源法寺在住の塚田伝氏より、真壁町が2,005万円の教育寄付を受ける。以降塚田伝奨学資金支給条例を制定し、基金の運用を図っている。 条例に基づいて優良な生徒または学生で、経済的な理由によって就学が困難な者に対して、基金より奨学資金を支給し、有為な人材の育成を図るものである。 奨学資金の支給を受けることができる者は、本市内に引き続き1年以上居住する者の子弟であって高等学校(盲学校、聾ろう学校及び養護学校の高等部を含む)及び高等専門学校に在学しているものである。 奨学資金の支給額は、茨城県立学校授業料等徴収条例の規定に基づく授業料の額以内とする。	奨学生を選考し、授業料相当額を奨学資金として、毎月、口座振替により支給する。 塚田伝奨学学生選考委員会・審査会の開催・奨学生の選考・決定通知等関係書類作成及び通知 毎月：奨学金の支給手続き

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)
1月に奨学生を選考し、授業料相当額を奨学資金として、4月分から毎月、口座振替により支給する。塚田伝奨学学生選考委員会・審査会の開催・奨学生の選考・決定通知等関係書類作成及び通知 毎月：奨学金の支給手続き	選考委員会の開催数	回	1.00	1.00	1.00	1.00	0.00
	塚田伝奨学資金の支給した回数	回	12.00	12.00	12.00	12.00	12.00
	塚田伝奨学資金の金額	円	594,000.00	475,200.00	475,200.00	1,069,200.00	1,069,200.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)
本市内に居住する高等学校(盲学校、聾ろう学校及び養護学校の高等部を含む)及び高等専門学校に在学しているもの。	奨学資金を支給された人数	人	5.00	4.00	4.00	9.00	9.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)
優秀な生徒または学生であって経済的な理由により就学が困難な者に支給する。	奨学資金により、就学ができていない人数	人	5.00	4.00	4.00	9.00	9.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量 (事業費) の推移		03年度 (実績)	04年度 (実績)	05年度 (計画)	06年度 (目標)	07年度 (目標)	期間限定 総投入量
投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	
		使用料・手数料	千円	0	0	0	
		その他	千円	594	476	594	
		一般財源	千円	3	3	3	
		事業費計 (A)	千円	597	479	597	
	正規職員従事人数	人	2.00人	2.00人	2.00人		

04年度事業費 実績 (千円)		05年度事業費 予算 (千円)	
07 報償費	3	07 報償費	3
19 扶助費	476	19 扶助費	594
	合計	479	合計
			597

(4) 当該年度の実施内容	05年度の事業内容	06年度の事業内容	07年度の事業内容
※年度ごとに事業内容を記入する	・塚田伝奨学学生選考委員会、審査会の開催 ・決定通知等関係書類作成及び通知 ・奨学金の支給手続き	・塚田伝奨学学生選考委員会、審査会の開催 ・決定通知等関係書類作成及び通知 ・奨学金の支給手続き	・塚田伝奨学学生選考委員会、審査会の開催 ・決定通知等関係書類作成及び通知 ・奨学金の支給手続き

事務事業名	塚田伝奨学資金支給事業	事務事業No.	20102000164	所属課	学校教育課
(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
昭和52年真壁町大字源法寺在住の塚田伝氏より、真壁町が2,005万円の教育寄付を受ける。 以降塚田伝奨学資金支給条例を制定し、基金の運用を図った。 当初は2,005万円の基金の取り崩しをせず利子の運用のみで対応。平成18年度からは基金の取り崩しを行い、奨学資金に充てている。平成22年度県条例改正に伴い授業料無料化になったため、学用品等として授業料相当額を支給。令和4年3月まで定期預金で基金を管理していたが、利率が低くその後は普通預金で管理している。					
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？					
受給した奨学生及び保護者からは大変感謝されている。					

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評 価 項 目	
現状維持	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 就学困難な学生に授業料相当の奨学金を支給することは、教育体制の充実に結びつく。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 財源は塚田伝奨学資金によるものであり、税金の投入ではない。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定している。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 優秀な人材が経済的理由で就学困難になる恐れがある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業はない。
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定しているため、削減の余地はない。
	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 塚田伝奨学資金支給条例に基づき対象を決定している。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括 (振り返り、反省点)																									
①目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	奨学生から学校生活の様子や近況を伝えた手紙等が塚田氏のもとへ送られている。令和5年度には新たに2名の援助が決定し、令和5年度より奨学金が4名に支給される。																									
②有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																										
③効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																										
④公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																										
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																									
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改革改善を行う <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																									
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策		<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	×
		コスト																									
		削減	維持	増加																							
成果	向上																										
	維持		○	×																							
低下		×	×	×																							
		(6) 事務事業優先度評価結果																									
		成果優先度評価結果 ②																									

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> A A: 継続 (現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続 (改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input checked="" type="checkbox"/> 確認